



Agenda

1 アクティブラーニング

能動的な授業参加を通して「学ぶ力」を育成。
現在検討が進む新しい大学入試制度へも対応。

知識や情報を集めること自体は容易になった現在、生徒たちが学校教育を通じて身につけるべき学力が変わってきています。単に物事を知っている、覚えているという段階にとどまるのではなく、その知識を活用し組み合わせて問題を解決できる、他者と協働することができる、そうした力をつけることが期待されています。桐蔭学園では、生徒がそのような力を身につけられるよう、アクティブラーニング(AL)型授業を導入します。AL型授業とは、少人数のグループで互いに教え合いながら問題の解き方を考えたり、生徒自身が学習内容をまとめて発表したり、能動的に知識を活用する手法を取り入れた授業形態を指します。従来の講義型の授業にこうした手法を組み合わせることで、学習内容がより一層定着しやすくな

るだけでなく、生徒が自ら主体的に学ぶ喜びを感じられることが期待されます。

桐蔭学園では、生徒の学びの質を高められるよう、2015年度から京都大学高等教育研究開発推進センター・教育学研究科の溝上慎一教授と連携し、本格的にAL型授業を導入していきます。そして、全学的な取り組みを通して、「自ら考え判断し行動できる子どもたち」を育て、AL型授業のモデル校になることを目指します。AL型授業を通して身につけた「学ぶ力」は現在検討が進められている新たな大学入試へ対応する学力をつけるとともに、大学進学後も社会に出た後も、目標を持って大きく伸びていく生徒を育てることにつながると、私たちは考えています。

**アクティブラーニング研究の第一人者
京都大学高等教育研究開発推進センター
溝上慎一教授が教育顧問に就任し、
授業をプロデュース**

溝上慎一(みぞかみしんいち)教授
京都大学高等教育研究開発推進センター教授、京都大学博士(教育学)。専門は青年心理学と高等教育。日本のアクティブラーニング研究の第一人者であり、国内の大学、高等学校でのアクティブラーニング型授業の導入実績を多数有する。

最近の著書
溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂(2014年)、溝上慎一・松下佳代(編)『高校・大学から仕事へのトランジション—変容する能力・アイデンティティと教育—』ナカニシヤ出版(2014年)

